

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究者および教員のレベルでの国際共同研究会を毎年主催、共催する。	→国際交流研究会の開催数および文部科学省科学研究費補助金などによる国際共同研究プロジェクトへの参加者数。	B
2. 留学生を含む出身国との学生と本研究科の学生の研究交流の機会を増やす。	→院生および修了生による国際交流研究会の開催数および参加者数。	C
3. 院生に対する国際理解、国際協力のための学習機会を提供する。	→国際理解や国際協力のための講演会、講習会、シンポジウム、フォーラムなどの開催数。	B
4. 研究科担当教員に外国人教員を確保する。	→大学院教員総数に占める外国人教員の比率。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目7.0.1	(現状説明) 国際交流について教育研究交流に関しては国際学会での発表や海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査など積極的に取り組むことになっている。
☆ 小項目7.0.2	(現状説明) 教員の教育研究交流は、国際学会での発表や海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査などが行われている。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【人間福祉研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	/	/	/	-	-		
指標2	国際交流協定締結国数		国	/	/	/	-	-		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	/	/	/	-	-		
		外国人留学生	正規	人	/	/	/	4	1	
			交換	人	/	/	/	0	0	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	/	/	/	14.8	3.7	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	/	/	/	0.0	0.0	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)		人	/	/	/	-	-			
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	/	/	/	-	-		
		人 数	長期	人	/	/	/	0	0	
			短期	人	/	/	/	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	/	/	/	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		/	/	/	0.0	0.0			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	/	/	/	0	0		
		短期	人	/	/	/	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	/	/	/	0	0		
		短期	人	/	/	/	0	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	/	/	/	-	-		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

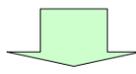
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



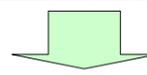
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	大学院生のレベルでの国際研究交流は必ずしも芳しくないため工夫が必要である。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○発足して間もない研究科ですが、今後積極的に国際交流にも目を向けて行かれることを期待します。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明だと思います。

○小項目7.0.1の現状説明ですが、研究科レベルで国際交流の方針を明示していますか。大学の方針に準じている場合でも、その旨を記述してはどうですか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目7.0.1(現状説明)

国際交流についての方針は全学の方針に基づき、教育研究交流に関して国際学会での発表や海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査など積極的に取り組む方向である。

★

○小項目7.0.2(現状説明)

教員の教育研究交流は、明示された方針は無いが、教員の自主的な取組により国際学会での発表や海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査などが行われている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
